

全力で歩き通せ！折乃笠部長
 神奈川の歴史を訪ねる徒歩の旅
 【13】最終回 まとめ
 2015年12月20日(日)

【1】全体計画		1月 1日(木)
【2】神奈川県立歴史博物館		1月10日(土)
【3】弥生時代	三浦半島	2月14日(土)
【4】奈良時代	海老名～大磯	3月 7日(土)
【5】鎌倉時代	鎌倉	4月 4日(土)
【6】室町時代	小田原	4月29日(水)
【7】江戸時代	箱根	5月25日(土)
【8】江戸時代	浦賀	6月14日(日)
【9】明治時代	横浜	7月26日(日)
【10】昭和時代	横須賀	8月10日(月)
【11】昭和時代	川崎	9月20日(日)
【12】平成時代～未来へ	横浜～川崎	10月11日(日)
【13】まとめ		12月20日(日)



1. はじめに

- 2011年:甲州街道(日野～下諏訪)徒歩の旅 走行距離178.6km
 走行時間39時間51分 目的地に向かって歩き続ける修行
- 2012年:日本一富士山が美しく見られる大月秀麗富嶽十二景を訪ねて
 19峰登山 自然との戦いの修行
- 2013年:富士山一周徒歩の旅 走行距離178.8km
 走行時間45時間58分 自身の5感を研ぎ澄ます修行
- 2014年:東京23区探索徒歩の旅 走行距離:469km
 走行時間142時間10分 感性の修行

4年間、山梨と東京の自然、文化、生活などを歩くことにより自分自身の5感と足で探索してきた。徒歩は手段、目的は修行をすることにより自己を高めることにあった。2015年は、目的は自己を高めることには変わりはないが、手段として神奈川という魅力的な場所の歴史を調べ、徒歩で訪ね、自分なりの考察をするという新しい試みにチャレンジした。

2. 内容

1) 弥生時代 三浦半島

三浦半島には海蝕洞窟遺跡が30カ所ある、有名なのが毘沙門洞窟。水稻農耕を開始した弥生人が何故海的生活をしていたかについて弥生人の一つ時代の先輩である縄文人の目から迫った。



洞窟の入口

2) 奈良時代 海老名～大磯

相模国分寺。奈良時代、仏教の安泰をはかるために、政府は国ごとに国分寺を建てさせたという。

そして国司を派遣して地方行政を実施させた。

中央政府の思惑とその役割について、聖武天皇(第45代天皇)が現地を訪れ、実情確認を実施した。



相模国分寺跡

3) 鎌倉時代 鎌倉

日本は、鎌倉時代から政治の権力が朝廷から幕府へと移っていき、武家政治の時代になっていった。

そこで、鎌倉幕府の誕生から繁栄、そして終焉までを、初代将軍・源頼朝の妻・北条政子が鎌倉全域を歩き訪ねながらその内容を解き明かした。



鎌倉の大仏

4) 室町時代 小田原

政治の中心が京都に移り関東には権力の空白が生まれた。
 その中で戦国時に関東の一円支配をめざしたのが北条氏である。
 近接する甲斐の国の国主武田信玄の目から北条氏に迫った。



美しい 小田原城

5) 江戸時代 箱根

東海道五十三次、江戸時代の陸の大動脈。小田原～箱根・天下の剣を当時を偲びながら歩き、江戸文化について水戸黄門が迫った。



箱根 芦ノ湖

6) 江戸時代 浦賀

嘉永6年(1853)西洋文明の象徴である蒸気船を率いて浦賀にペリーが出現。
 黒船来襲、幕末開始、日本国は大きく変わり始める。その頃の日本と現在の日本をペリーはどう見たかに迫った。



黒船出沒した海

7) 明治時代 横浜

横浜開港時代と現代について“赤い靴を履いていた女の子”の目で探った。



外人墓地

8) 昭和時代 横須賀

何故、現在ここ横須賀に米軍横須賀基地があるのか、東京裁判の敗戦国の立場からなのか、東京裁判のブレイクニー弁護人の目から迫った。



よこすか海岸通り

9) 昭和時代 川崎

何故、終戦まもなく日本人は奇跡の復興をし、世界有数の京浜工業地帯を作り上げることができたのか、田中角栄元総理大臣の目から迫った。



大同特殊鋼と屋形船

10) 平成時代～未来へ 横浜～川崎

神奈川そして日本はどの様に未来に向かっていくのか、我々日本人はどう考え行動したら良いのか、折乃笠が迫った。



みなとみらいの街

3. 折乃笠からのメッセージ

私は今年一年掛けて弥生時代から平成時代を訪ねて神奈川全域を歩いてきました。

私の今回の旅の目的は、日本はどの様に未来に向かっていくのか、我ら日本人はどう考え行動したら良いのか、を知ることでした。

そして、その答えは、歴史を学び、日本という国をよく知ることでした。我ら日本人は、大きな苦難を乗り越え、創意工夫して、それぞれの時代を造ってきたことが良くわかりました。

以下にその内容を記します。

縄文時代から弥生時代への変化は大きく、弥生時代は21世紀の日本文化の骨格を作り始めていたことがわかりました。

奈良時代に始まった国分寺について、平成時代の人々は、意義、目的を十分理解していることがわかりました。

21世紀という超高度な文明の中でも、きちんと神道が受け継がれていることに私は日本人の魂がきちんと伝承できていると確信しました。

北条政子の政治的功績は日本の歴史上非常に大きいことがわかりましたが、母親として政子は決して幸せではなく、哀れで、可哀想に思えてなりませんでした。歴史上の人物の生き様を知ること、現代を生きる我々にとって重要な事だと思いました。

小田原は北条氏の良き人柄がそのまま街を作っていることがわかりました。歴史上においても、一番大切なものは人間性です。

江戸時代の政治、文化、技術は、鎖国していたにもかかわらず、世界高水準にあったのではないかと思います。そしてもし、江戸時代が続いていたならば、イギリスの様な産業革命が起きていたかもしれません。

明治維新前の日本は、大自然と生活が見事に調和し、人々は勉強と仕事に励み、質素に慎ましく、笑いの絶えない、伸び伸びとした生活を送っていました。現代人が忘れかけている一番大切なことだと思えます。

明治時代、赤い靴のきみちゃんはほとんど両親の事も知らず、幼くして結核を患い、最後は9歳で孤児院で一人亡くなっていきました。せめてお母さんの顔を見たかったでしょうね。

まだ、日本国全体が貧しかった時代、この様な悲しい出来事はいっぱいあったのだと思います。

日本人の切なさも是非知っておくべきことだと思いました。

歴史に涙する感性も必要ですね。

第二次世界大戦後、東京裁判にて日本は完全に敗戦国として扱われ、米国から出された全ての条件を受け入れねばならず、横須賀には米軍基地も然りです。

しかし、日本人の凄さは、そこで終わらなかつたのです。

持ち前の真面目さ、勤勉さ、賢さで、世界の奇跡とまで言われた完全復興により、世界第三位の経済大国になりました。

日本の“奇跡の復興”ができたのは、次の四つの要因であると考えられます。

- 1 日本人は、持ち前の真面目さ、勤勉さ、賢さを有していること
- 2 強力な指導力を有する政治家がいたこと
- 3 強力な行動力を有する官僚がいたこと
- 4 日本の将来のために働いた経営者がいたこと

これからの日本人は、未来に向かって、どんな苦難があっても、今まで以上に日本人らしく、邁進していくことが使命だと思います。

結果、世界をリードする事になるのだと思います。

今回、私は、この様な多くの歴史を知ることにより、感動、涙、新たな希望を持つことができました。私は、歴史から魂を大きく揺すぶられました。

新たなる生きるための指針とこれから更に歴史を学ぶ決意ができました。

これから先、日本は、必ずや明るい未来を造ることができると信じています。

自分も日本人としても誇りを持ち、その一員になりたいと思います。

それでは最後にもう一度

歴史は、いろいろな人の生き様を教えてくれる。

歴史を学ぶのは、人生を考える事。

歴史は、ロマンだ。

大きな希望を持って進んで行きましょう。

まもなく2016年。
新たなチャレンジが小生を待っています。

2015年12月20日

折乃笠 公德